



三到図書館 ニュース

2009年10月発行
No.65

J. F. Oberlin University Library

◇巻頭メッセージ

◇図書館と授業との連携

◇図書館利用ガイダンス報告

◇教員向けアンケート集計報告

◇データベースを利用しよう

◇図書館読書運動プロジェクト

📖 巻頭メッセージ

論文は足で書け ― 学外の図書館への小さな旅 ―

リベラルアーツ学群准教授 西岡 達裕

昨年、私は、ゼミの学生たちと一緒に国立国会図書館の書庫を見学してきました。エレベーターで地下30メートルの地底書庫に降り立つと、中央部分に光庭がありました。そして、垂直に切り立つ壁面を見上げると、光の降り注ぐ地上へとつながる長い非常用の階段があるのですが、いま停電になることだけは勘弁してもらいたいと思ったものです。

「論文は足で書け」とは、フィールドワークの勧めではなく、「資料探索の労苦を厭うようでは、よい論文の作成は望めない」という先人の教えです。ただし、私はここで、資料探索のことを「労苦」といわず、「小さな旅」と呼んでみたいと思います。所属大学の図書館から離れて、よその大学の図書館や国立国会図書館へ行ってみることは、小旅行と思えば足取りも少し軽くなるはずです。

「えっ、よその図書館って利用できるの？」と疑問に思った学生諸君も、心配には及びません。全国の図書館には利用者のために相互協力の制度があるので、本学の図書館に依頼すれば、他大学の図書館を利用できるよう紹介状を書いてもらったり、資料を複写・郵送してもらったりできるのです*。詳しく知りたい人は本学図書館の司書に相談してみるとよいでしょう。国立国会図書館については、ガイド付の参観を希望する場合には団体予約が必要ですが、通常の利用であれば予約も紹介状も必要ありません。

私自身、学生時代によその大学の図書館へ資料探索に訪れたとき、少しドキドキしたのを覚えています。



国立国会図書館前にて（2008年6月撮影）



東京大学アメリカ太平洋地域研究センター前にて（2009年6月撮影）

誰もよその学生とは気づかないだろうか、まさか入口で守衛に呼び止められはしないだろうか、目当ての資料が貸し出し中だったりしないだろうか、ほかにも面白い資料が見つかるのではないかな、ついでに学食にでも行ってみようか……。

私のゼミでは、これまで毎年、東京大学駒場キャンパスにあるアメリカ研究の専門図書館へ研修に出かけています。図書館の職員に20分ほどかけて館内を案内してもらい、一年間利用できる利用証を発行してもらいます。残りの時間は施設を自由に見学・利用しますが、その間、私はキャンパスのベンチに腰掛けて、学生を一人ずつ呼んで研究や進路の相談をすることにしています。そして、その夜には、新宿・渋谷あたりのレストラン(居酒屋ではない!)でコンパをするのが恒例の行事です。

私自身は、こうした課外活動を通じて、学生の研究意欲を刺激するだけでなく、4年制大学の卒業生にふさわしい人格と行動が身につくような経験を積んで欲しいと願っています。

学外の図書館への「小さな旅」は、教員の引率がなくても、一人でも、今日からでも、始めることができます。桜美林大学の図書館は、そこだけで完結した知の世界なのではなく、広く世界に開かれた知の入口であることを理解して、図書館間協力の制度を上手に利用することを勧めたいと思います。

* 図書館間協力を含め、資料収集の方法については、齊藤孝・西岡達裕『学術論文の技法(新訂版)』(日本エディタースクール出版部、2005年)および西岡達裕『オンライン情報の学術利用―文献探索入門』(日本エディタースクール出版部、2008年)を参照。

図書館と授業との連携

図書館で調べることの意味 ーウィキペディアを越えるものー

基盤教育院教授 井下 千以子

「図書館ツアーには行ったけど、OPACって何？忘れちゃった」使わなければ忘れてしまうし、目的がなければ行かない。興味がなければ自分から行くことはないし、課題を出されてもウィキペディアで済ませることだってできる。では、図書館は必要ないのでしょうか？なぜ、先生は「ウィキペディアじゃ、ダメ」と言うのでしょうか？

ウィキペディアで調べることが悪いのではありません。ウィキペディアはおおよそ情報を即時に把握するにはとても便利なツールです。でも、信頼できない情報が含まれている場合もあります。ですから、「ウィキペディアじゃダメ」ではなくて、「ウィキペディアだけじゃダメ」なのです。しかも、インターネットの情報は膨大にあるかのように見えますが、実は、知の全体像から見れば、それはほんの一部なのです。

では、何を、どうやって調べたらいいのでしょうか？まずは、授業で出された課題をよく理解してください。次に、自分が知りたい情報は、何を調べればよいのか、見当をつけましょう。図書館では、図書(本)だけでなく、辞典、新聞、一般雑誌、学術雑誌、白書、Web情報など、様々な資源から情報を探し出すことができます。

私は、この春学期から、2つの授業で、図書館の利用を促進する取り組みを始めました。「大学での学びと経験」という初年次生を対象にしたアカデミック・ガイダンス科目と、専門科目「学習心理学」の授業です。アカデミック・ガイダンスの授業では、根拠に基づく意見文を、心理学の授業では、仮説検証型の論文に近いレポートを要求しています。前者の課題は「小学生の携帯電話の利用」について、後者は、日常の学習行動に問いを立て、そうした自分自身の素朴な問い

を、学習心理学や認知心理学を理論的背景として検証するという課題です。前者は、最近の話題ですから、インターネット・新聞・一般雑誌・新書などを探すとよいでしょう。それに対して後者は、専門分野の先行研究など、学術雑誌や専門書を調べる必要があります。

そうすると、インターネットが得意であること、インターネットだけではわからない問題、インターネットが不得意な問題もあることがわかります。さらに、この2つの授業では、OPAC、聞蔵、WebcatPlus、CiNiiなどデータベースの使い分けもできるようになります。

こうしたインターネットを使う情報の検索は、図書館に行かなくともできます。一方、図書館でしか、手に入らない情報もたくさんあります。実際に、書架(書棚)に並んでいる本を探すことも情報の検索においてとても大切です。本の背中(題名)を眺め、実際に手にとって眺めていると、その分野の知識が体系的に、また著者の背景など、いろいろな情報が目に飛び込めます。それも、図書館の楽しみ方の一つです。

そして、図書館に行く、もう一つの大きな価値は、レファレンスサービスにあります。図書館には図書館スタッフがいって、親切に質問や要望に応じてくれます。とても心強いサポーターです。私の授業も図書館スタッフのみなさんの協力によって充実させることができます。

まずは、自分から図書館へ足を運んでみませんか。恥ずかしがらずにわからないことがあれば、レファレンスに相談しましょう。図書館は本があるところだけではありません。図書館には図書館員という専門のスタッフがいって様々な支援をしてくれます。図書館は“知の宝庫”です。素晴らしい知の世界へ深く分け入っていく楽しさをきっと発見できるはずです。



図書館利用ガイダンス報告

図書館での「学びと経験」



大学図書館の利用方法は高校の図書室の利用方法とは大きく異なります。まず最初にそれまで使っていた高校の図書室に比べて規模がとても大きくなり蔵書数も増えます。所蔵している資料も学術図書の割合が格段に増えます。英語、ドイツ語から中国語など外国語で書かれた図書も多く所蔵され、雑誌や新聞も普段見慣れたものから国内外の学術雑誌・新聞まで多岐に渡ります。また図書館で契約しているたくさんのオンラインデータベースも利用することができ、授業やレポート、論文作成のための情報検索には欠かせないツールです。

図書館の資料はすべて書架に並んでいるわけではありません。書架に並んでいる本を利用者が自由に手に取ることができる形式を「開架(open shelf)」と言います

が、増え続ける資料を収容するスペースが不足し、どこかの大学図書館でも図書館の書庫や外部倉庫に保管しています。このような保管形式を「閉架(closed stacks)」と言います。ご多分に漏れず桜美林大学図書館でも建物の狭隘化が進み「開架(open shelf)」されている図書は全蔵書の約半分という状態です。ということは、図書館の中で目にする資料がその図書館の



全蔵書ではないのです。こうなるとただ書架を眺めて本を探すだけでは用が足りなくなってきました。より多くの資料を効率良く探し出すためには情報検索技術が重要になってくるのです。



図書館では毎年4月に新入生オリエンテーションのプログラムの中で図書館利用についての案内・説明を行っています。

2009年度は総合文化学群（4/4）、

大学院（4/5）、健康福祉学群（4/6）、留学生別科（4/6～7）、大学院四谷キャンパス（4/8）という日程で図書館利用の説明を行いました。また4月から7月にかけて、リベラルアーツ学群（以下、LA学群）とビジネスマネジメント学群（以下、BM学群）新入生を対象にした図書館利用ガイダンスを実施しました。

LA学群新入生対象の『リベラルアーツセミナー（以下、LAセミナー）』図書館ガイダンス（4/20～7/2）では、期間中の月、火、木、金の5時限に2～3クラスずつ、計71クラス約1,000名に対して実施。BM学群新入生対象の『ビジネスの基礎』（4/20～7/21）では、期間中の月、火の5時限に1クラスずつ、計27クラス約420名に対して実施。プログラムはいずれも、図書館の本館と情報メディア室の館内ツアー、PC教室または情報メディア室においての情報検索の説明および検索実習です（全部あわせて約90分）。これらの他に、教員の希望により授業単位での『情報検索ガイダンス』『館内ツアーガイダンス』も実施しています。『情報検索ガイダンス』は、LA学群専攻演習、健福学群専攻演習、日本語専門基礎、学習心理学等、計13クラス約200名に対して検索実習を行いました。『情報検索ガイダンス』の内容は、情報検索・オンラインデータベース検索、雑誌コーナーの案内等、教員の希望にあわせて約60～90分間のガイダンスを行いました。『館内ツアーガイダンス』は計3クラス約50名に対して実施しました。これら2009年度春学期に実施した『LAセミナー』『ビジネスの基礎』『情報検索ガイダンス』『館内ツアーガイダンス』では計114クラス、参加人数は約1,650名に達しました。

これらのガイダンスは毎年恒例の行事とはいえ、事前の教員との打ち合わせやプログラムの準備に始まり、限られた人数の、しかもベテランから新人までそれぞれ図書館業務経験もまちまちな図書館職員が、4月から7月にかけて分



職員の負担も年々増えているという実感があります。

それでも、これから大学生活を送る新入生に図書館に来てほしい、たくさん本を読んでもほしい、図書館



に親しんでほしいという思いに変わりはありません。一人でも多くの新入生がこの図書館利用ガイダンスがきっかけで図書館ファンになってくれたらと願っています。また新入生がやがて熱心なリピーターとなり、顔見知りの図書館職員と言葉を交わすとなると「ガイダンスをやっていてよかったな」と感じます。

また今年は大学のカリキュラムと連携した「図書館利用・活用支援」という新たな試みを開始しました。図書館のレファレンス担当職員が、井下千以子、鳥井康熙、松久保暁子諸先生が基盤教育院授業で担当されている『大学での学びと経験』4クラスの授業（6/8, 12, 16, 18, 19, 23）にお邪魔して、授業で出される課題をこなすための図書館活用法（情報検索や図書館の資料の探し方）等の講義を行いました。講義を担当したレファレンス担当職員によれば、やはり課題について調べるという必要性に迫られているためか、真剣に聞き入っている学生も多かったということです。授業を受けた学生の感想の中には「詳しい検索の仕方がわかった」「図書館はとても便利だと思った」「図書館をもっと使ってみようと思った」などという嬉しい回答もありました。



印象的だったのは「『LAセミナー』や『ビジネスの基礎』でわからなかったことがこの授業で理解できました」という感想でした。すでに図書館利用ガイダンスで情報検索実

習を受けてはいるものの、ツアーとセットになっていて時間が慌しく、図書館職員の引率や説明がスムーズにいかないと学生の気分がだれてしまうこともあります。そのため説明がうまく伝わらず（もちろん私たちの技量不足もあります）消化不良を起している学生も多いと思われます。このような理由から、まず最初に全体のガイダンスで概略を説明し、続いて今回のような授業形式でさらに詳細な図書館利用方法を説明するという段階を踏むことは、学生が図書館利用についての理解を深めていくプロセスとして有効なものになると思われます。

今回は教員の皆様の有難いお声かけにより、カリキュラムと図書館が直接リンクするという方法を取ることができました。担当した図書館職員も大いに刺激を受けたとのことで、この「学びと経験」を今後の図書館利用ガイダンスに活かしていくことでしょう。

（情報サービス課係長 佐々木俊介）

教員にとっての「桜美林大学図書館」

本学図書館では、専任・非常勤教員の先生方がご自身の研究・教育活動に本学図書館をどのように利用されているか、図書館に対してどのような感想や意見をお持ちであるか、を把握して将来の図書館運営の改善に役立てるため、2008年6～7月に教員向けアンケートを実施した。お忙しい中、ご協力いただいた先生方には、心から感謝を申し上げたい。

今回は専任教員（回答者191人）の回答に注目し、本学の専任教員が本学図書館をどのように利用しているか、についてアンケート集計結果から見てきたものを紹介する。

※ 教員向けアンケート各質問項目の単純集計結果は2008年度第6回図書委員会（2008年10月22日）、二次集計結果は同年度第9回図書委員会（2009年2月25日）にて報告されている。専任教員の先生方は、集計結果を学内共有ディレクトリにて閲覧することができる。

■ 来館頻度でみる教員の図書館利用

専任教員の来館頻度を質問したところ、「（1）週に1度以上」「（2）月に何度か」を合計して75名（39.3%）、「（3）年に何度か」が60名（31.4%）、「（4）めったに行かない」「（5）まったく行かない」と無回答を合わせて56名（29.3%）であった。そこで、便宜上、（1）（2）と回答した教員を「来館頻度A」、（3）と回答した教員を「来館頻度B」、その他の回答と無回答の教員を合わせて「来館頻度C」の3つのグループに分け、グループごとの違いを見た（表1）。

表1：図書館への来館頻度【単一回答】

グループ	図書館への来館頻度	回答数
A	(1) 週に1度以上	17
	(2) 月に何度か	58
B	(3) 年に何度か	60
C	(4) めったに行かない	41
	(5) まったく行かない	14
	無回答	1
	総計	191

■ 研究と教育に図書館を利用する教員 ～文献複写と視聴覚資料の利用に一定のニーズ～

専任教員の主な来館目的は、「（1）研究用の資料を利用するため」50.8%、「（2）教育用の資料を利用するため」38.5%であるが、上述の「来館頻度A（週に1度以上来館）」の教員に限れば、研究目的で来館する教員が多くなる（表2）。来館した教員の多くは図書館内で「図書・事典等を利用する」「雑誌を利用する」「蔵書を検索する」などの行動をとるが、主な来館目的が「研究用の資料を利用するため」とする教員だけに限れば、上記3行動に続き「文献複写・貸借依頼した資料を受け取る」教員の割合が相対的に増える。また、主な来館目的が「教育用の資料を利用するため」とする教員だけに限れば、「視聴覚資料を利用する」教員が相対的に増える（表3）。

表2：主な来館目的【単一回答】（来館頻度別：無回答・無効回答を除く）

主な来館目的	A	B	C	総計
(1) 研究用の資料を利用するため	32	23	3	58
(2) 教育用の資料を利用するため	18	24	2	44
(3) 研究・教育とは直接関係のない資料を利用するため	2	4	0	6
(4) その他	2	2	2	6
総計	54	53	7	114

～教員向けアンケート集計結果より～(1)

副図書館長 堀 潔

表3：教員は図書館で何をしているのか？【複数回答】

図書館サービス（館内）でよく利用するものは？	総 計	(1)研究	(2)教育
(1) 図書・事典等を利用する	①95	③30	①28
(2) 雑誌を利用する	②86	①31	②21
(3) 蔵書を検索する	③72	①31	④15
(4) オンラインデータベースで情報検索する	55	④20	11
(5) 視聴覚資料を利用する	34	5	③18
(6) 文献複写・貸借依頼した資料を受け取る	35	④20	5
(7) レファレンスサービスを利用する	12	4	4
(8) 閲覧席、視聴コーナーを利用する	10	4	3
(9) その他	5	0	0

※「（１）研究」は主な来館目的を「研究用の資料を利用するため」と回答した教員、「（２）教育」は主な来館目的を「教育用の資料を利用するため」と回答した教員に、それぞれ限った場合の回答数を示している。
 ※ データ内の丸数字は回答数の多い順番を表している。

■ 館外からも図書館を利用する教員 ～蔵書検索とオンラインデータベース～

一方、来館頻度C（ほとんど来館しない）の56名に「なぜ図書館に来ないのか」を質問したところ、過半数の教員が「行かなくても間に合っている」と回答している（表4）。しかし、館外から「蔵書検索をする」「オンラインデータベースで情報検索する」と回答した教員も一定程度いて、「図書館に来ないこと」と「図書館サービスを利用しないこと」とは必ずしも同一でないことがわかる（表5）。

表4：来館頻度Cの教員は、なぜ来ないのか？【複数回答：回答者数56名】

なぜ図書館に行ったことがないのか？	回答数
(1) 行く時間がない	19
(2) オフィスから遠い	13
(3) ほしい資料がない	15
(4) 行かなくても間に合っている	31
(5) 着任して間もない	7
(6) その他	1

表5：本学図書館をどの程度館外利用しているか？【複数回答：回答者数56名】

図書館サービス（館外）でよく利用するものは？	回答数
(1) 図書館のウェブサイト蔵書検索する（OPAC）	20
(2) 目的の資料がどの大学図書館にあるかを調べる	11
(3) オンラインデータベースで情報検索する	29
(4) 他大学所蔵資料の文献複写を依頼する	4
(5) 「マイライブラリ」機能を利用して、新着図書情報を確認する	1
(6) 「マイライブラリ」機能を利用して、資料の貸出期間を延長する	0
(7) その他	1

データベース・電子ジャーナルを利用して論文を読もう！

桜美林大学図書館では、雑誌などの文献データベースや電子ジャーナルを契約しています。海外文献を調べる場合は、ProQuestを利用される方が多いかと思いますが、他にもいくつかあります。今回は、その中でも海外の文献データベース・電子ジャーナルで論文のフルテキスト（全文）が収録されているものについて、3点紹介します。これらは図書館が契約しているデータベースの中ではアクセス数が少なく、もっと利用していただきたいと思っています。いつもみなさんが利用しているジャーナルも収録されているかもしれません。図書館まで足を運ばなくても研究室から、学内のPCから利用することができます。ぜひ、研究活動にご活用ください。

■ InfoTrac Custom 学内利用 同時アクセス数：1

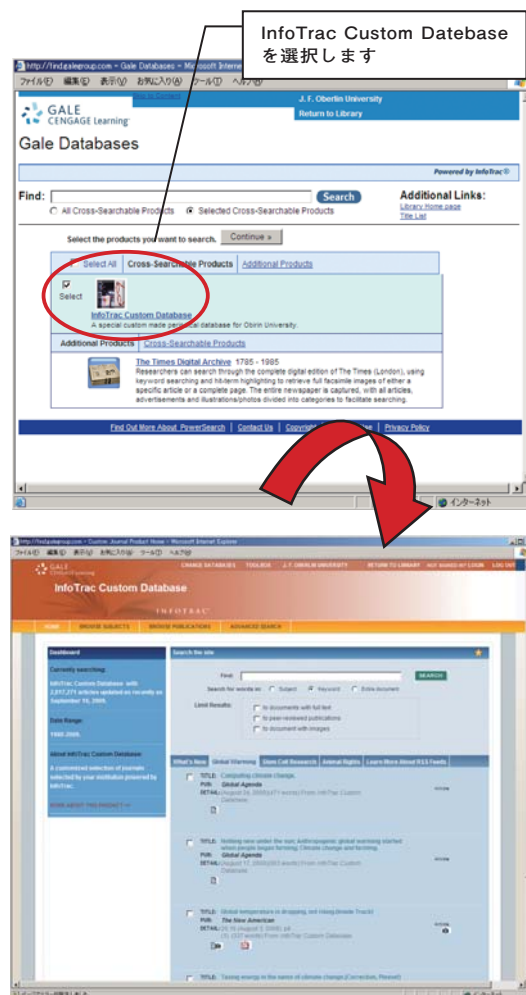
約16,000タイトルの定期刊行物の中から希望のタイトルを自由にセレクトすることができるGale社提供のデータベースサービスです。本学ではこの中から、1000タイトルを契約しています。本学契約のタイトルリストは図書館HPから確認することができます。

また、タイトルの入れ替えをすることもできます。ご希望のタイトルがありましたら、図書館までご連絡ください。

ほんの一部ですが、こんなタイトルも収録されています

U.S. News & World Report
National Geographic
New Yorker
Harvard Business Review
Chronicle of Higher Education
Review of Social Economy
Modern Language Review
Psychology Today
Personality & Social Psychology Bulletin
Journal of Applied Gerontology
British Journal of Psychology

※ 雑誌によってフルテキストやインデックスの収録期間が異なりますので、ご注意ください。

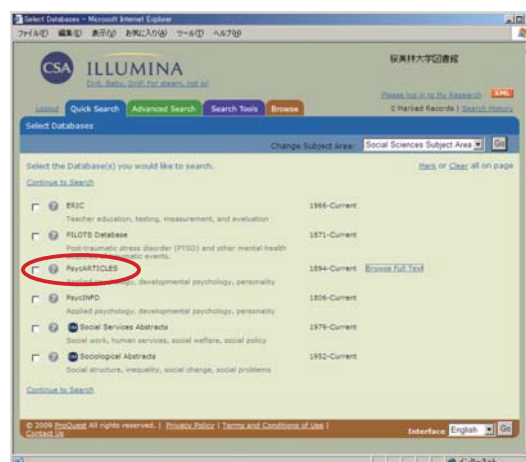


■ PsycARTICLES 学内・学外利用 同時アクセス数：制限なし

米国心理学会（APA：American Psychological Association）等が刊行する心理学関連のコアジャーナル50誌以上に掲載された論文（1894年から最新号まで）を入手できます。

※ マイライブラリ経由で学外からもご利用いただけます。

※ 現在、CSA Illuminaインターフェースでの提供ですが、2010年に、データベースProQuestとプラットフォームが統合される予定です。



図書館で購入している以下のタイトルも初号より収録されています

Developmental Psychology
Journal of Personality and Social Psychology
Psychology and Aging
Psychotherapy

他にも心理学系のコアジャーナルでは、以下のタイトルが収録されています

Psychological Bulletin
Psychological Review
Journal of Experimental Psychology

※ 初号から収録されているジャーナルが多いのですが、収録期間が多少異なっています。

Springer Online Journal Archive

学内利用 同時アクセス数：制限なし

2009年度より、本学での利用を開始しました。

Springerのジャーナル（初号から1996年まで）を全て電子化し、提供しているバックファイル・アーカイブです。約800タイトルの雑誌のフルテキストが利用できます。タイトルリストは図書館HPから確認することができます。また、図書館に所蔵が少ない自然科学系分野のジャーナルも多数収録されています。

※ SpringerLinkのプラットフォームよりご利用いただけます。

※ ブックシリーズLecture Notes in Computer Scienceのアーカイブも含まれます。



図書館で購入している雑誌タイトルでは、次のものも収録されています。図書館では所蔵していない期間もカバーしています

Community Mental Health Journal
Dialectical Anthropology
Environmental Management
Journal of Economics
Linguistics and Philosophy
Psychometrika
Public Choice
Social Choice and Welfare
Theory and Decision

人気の高い自然科学系のジャーナルでは、以下のタイトルが収録されています

Calcified Tissue International
Cancer Immunology, Immunotherapy
European Journal of Clinical Microbiology and Infectious Diseases
Cell and Tissue Research
Cellular and Molecular Life Sciences
Experimental Brain Research
Human Genetics
Planta
Journal of Molecular Medicine
Oecologia

これらの電子ジャーナルは、図書館HPの「データベース」よりご利用いただけます。ジャーナルによって、ProQuestなど他のデータベースにも重複して収録されているタイトルもあります。それぞれのデータベースによって、収録期間が違いますので、いろんなデータベースで検索してみることをお勧めします。

（事務課主査 高橋瑞江）



図書館読書運動プロジェクト活動報告



2009年度の図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）は新たに実行委員会形式で活動中です。これまでは学生の読書サークル「スタインベック」メンバーが読書会や読書イベントを行い、図書館と教員及び生協がこれを協力・支援するという形式を取っていました。今年度はこの形式を見直し、読プロに参加する各団体や個人が実行委員会を構成するという形式に移行しました。今年から新たに生協留学生委員会も参加し「読書マラソン・桜美林コメント大賞」（学生が読書の感想を書いたコメントカードの中から最も優れたコメントに対して授与）の留学生部門を立ち上げました。今回は読プロに参加している学生メンバーを紹介します。

■ 読書サークル「スタインベック」・・・定期的に読書会を主催。桜美林コメント大賞推進

2007年から活動を開始した「スタインベック」は月に2回～3回のペースで読書会を開催しています。もともと本好きな学生が授業で一緒になりサークルが結成されました。読プロにはサークル発足当初から関わり、桜美林コメント大賞や小説家を囲んでの拡大イベントなどを行ってきましたが、今年も桜美林コメント大賞イベントを開催すべく活動中です。キャンパスのあちらこちらで読書会が開かれるようになるといいですね。

- 「今まで読書の話や感想を言い合う仲間がいなかったんですけど、ここは読む本のジャンルが違ってワイワイ盛り上がる仲間がいて嬉しいです。『人間失格』の読書会をやったときは話がどんどん広がってとっても刺激的でした」（LA1年・高智子さん）
- 「本の話をして『お前の感想は変だ』って言われておしまいということが多かったのですが、ここではどんな意見でもちゃんと受け止めてくれるし、人の話をきちんと聞いてちゃんと答えてくれる、そんな仲間がいてとても楽しいです」（LA1年・安田明弘さん）



■ 生協留学生委員会・・・留学生コメント大賞推進

2000年に創設された生協留学生委員会は全国の大学生協でも有名。桜美林大学に学ぶ500名を超える留学生と日本人学生の交流の場として多彩な活動を展開しています。留学生の生活支援としての「留学生バザー」、学生たちの交流を図る「着物を着る会」「茶道交流会」「もちつき大会」などを開催し国籍を超えた友情を育み続けています。そんな生協留学生委員会が今年は「読書マラソン・留学生コメント大賞」にチャレンジします。

- 「春学期には図書館やPFC、生協などにコメントボックスを設置しました。秋学期は日本語プログラムの先生にも協力していただき、目標はコメントカード300枚です！」（委員長・経済4年・チャイガーンジャナウィワット・スックスコンさん（タイ））
- 「ふだんあまり読書はしないんですけど（苦笑）これから留学生コメント大賞の選考をするなんてドキドキします。素直な気持ちで選んであげたいです」（BM2年・佐藤涼子さん）



桜美林コメント大賞は年末に発表する予定です。学生メンバーが活躍する表彰イベントについても図書館から随時お知らせします。皆様の参加をお待ちしています。
（情報サービス課係長 佐々木俊介）